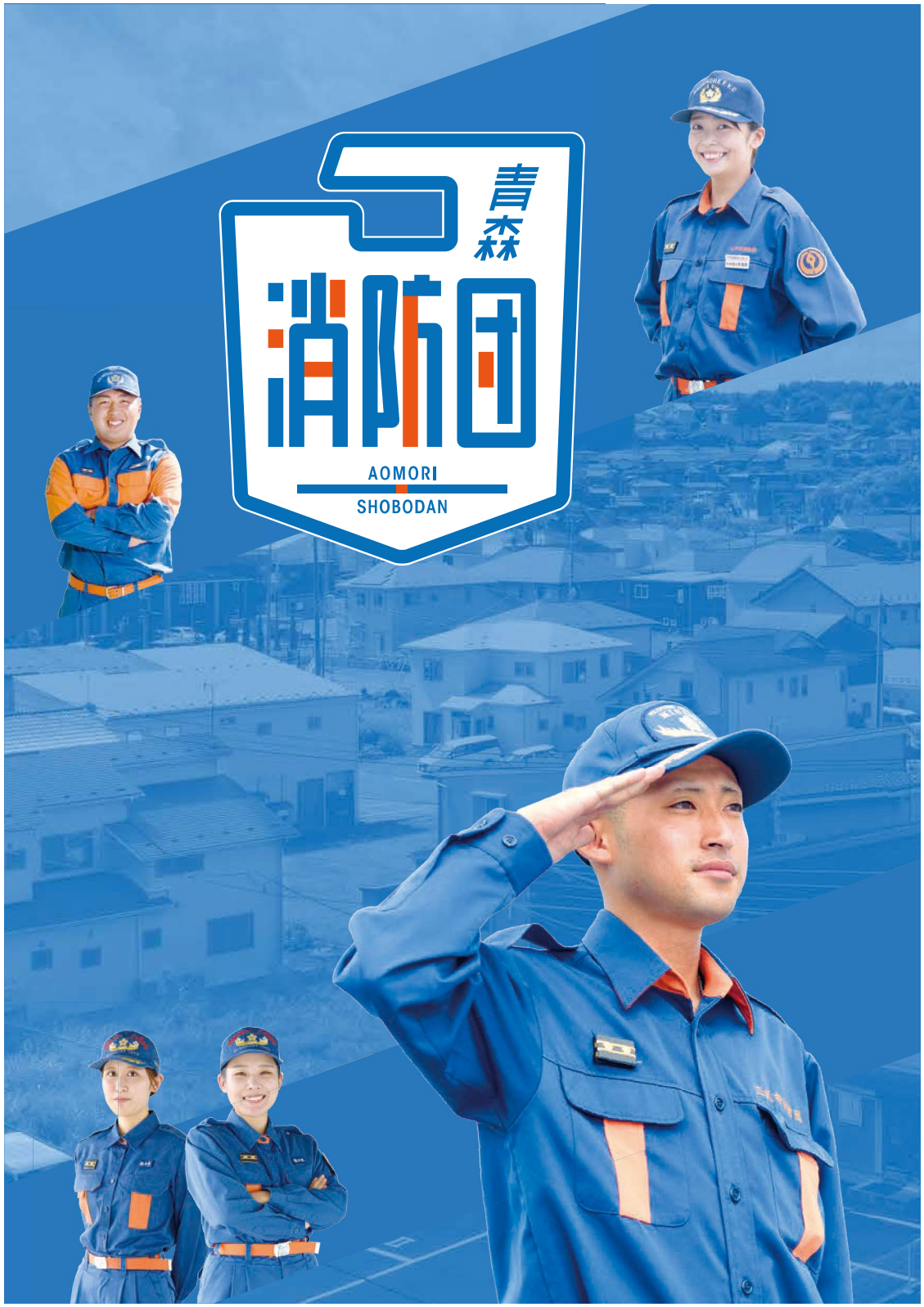


自分のまちが
好きだから、
自分にできる
ことをする。





青森
消防団
AOMORI
SHOBODAN

消防団の団員は
みんな、普通に暮らす
普通の人。
そして、自分のまちが
好きな人。

消防団は地域に
「住む人」「働く人」「学ぶ人」
によって構成されています。
団員はそれぞれ
自分の仕事を持ちながら、
「自分たちのまちは、
自分たちで守る」の精神のもと、
住民の安全を守るため、
自分たちにできることを
日々積み重ねています。



知事メッセージ

消防団だからこそ、
できること

青森県知事

三村 申吾



消防団と言えば、火災現場での消火活動のイメージが強いかもしれませんが、平常時には、各種防災訓練や小学校などで防火啓発を行ったり、災害時には、現場周辺の交通整理のほか、大雨災害時には、冠水箇所の排水作業や土砂の片付けなどの復旧のお手伝いをしたりと、実に幅広く活躍されています。

学生やお仕事をされている方も、それぞれができる範囲で地域の安全・安心のために活動できるのは、地域に根ざした消防団だからこそ。みなさんもまず一歩、踏み出してみませんか。



紹介動画はこちら

CONTENTS

消防団員インタビュー	P03-14
消防団の活動について	P15-16
報酬等・各種制度	P17-18
消防団へ入団するには	P19-20
救命・防火知識	P21-22

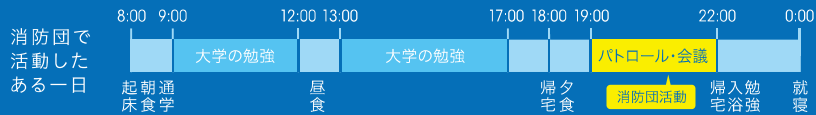


AOMORI
CITY



ひらいし かずま
平石 冬真

青森市浪岡消防団
第4分団(北中野地区)所属
20歳 / 大学生 / 活動歴1年



「先輩とのコミュニケーションが、 将来のための勉強になります。」



救急救命士を目指して勉強中とのことですが、入団のきっかけは？



平石 小学生のときから、消防署の訓練を見て消防士に憧れていました。高校で具体的に将来を考えるようになったときに、学校の先生の勧めもあり、短大の救急救命学科に進むことを選びました。最初は火災で活躍する消防隊に憧れるところもあったのですが、短大で学ぶうちに、改めて命に直接関わる重要な仕事をする救急救命士を目指す気持ちが強くなりました。

消防団に入ったのは、就職すれば様々な世代の人と一緒に働くことになるので、年齢の異なる人ともきちんとコミュニケーションをとり、協調していく訓練が必要だと思ったからです。

分団の雰囲気は？
先輩との交流は
うまくできていますか？

平石 うちの分団は、私の次に若い人が30代で、みんな大先輩。上は70歳近い方もいらっしゃい

ます。最初はうまく溶け込めるか心配でしたが、やさしい先輩ばかりで、みなさん、自分の暮らす街のことを本当によく知っていますし、いつも地域の安全のことを考えていて、話しているだけでとても勉強になります。コミュニケーション力を鍛えるだけでなく、組織の中で最年少としてやるべきこと、地域のことも自然に学べていると思います。

また、先輩方は社会経験が豊富で、消防と関係のないことでも悩みがあったらいつでも聞く、とも言ってくれます。とても居心地がよく、心強い組織です。

これまで経験した活動は？
将来についての
抱負もお聞かせください。

平石 これまで、放水イベントや、パトロール、冬場の消火栓周りの雪かきなどに参加しました。まだ災害現場の経験はありませんが、先輩からは、学業優先でいいと言われていました。

将来、救急救命士になれば、地域の人たちとも様々な形で関わっていくことになります。消防団活動を通してコミュニケーション力をもっと高めて、地域のどんな年齢の人にも信頼される存在になりたいと思います。





「防災教育に取り組む 先輩たちの熱い思いが素敵です。」

お二人とも大学生ですが、
消防団に参加した
きっかけは？

佐々木(友) 私は大学で地域活動への女性参加の現状について研究しています。その一環として女性分団の分団長にお会いする機会があり、お話を聞いて自分もやってみたくなりました。

佐々木(薫) 女性消防団の存在は大学に入ってから知ったのですが、一過性のボランティアを複数こなすよりも、消防団の活動を通して、長く深く地域と関わる方が、自分にとっての学びが大きいのではないかと考えました。



分団の雰囲気は？
入団して感じたこと、
良かったことは？

佐々木(友) 弘前の女性分団では、女性団員ならではの活動として防災教育に力を入れていますが、自分たちが子どもたちを守るというスタンスではなく、子どもたちが自分で自分の身を守る力をつけていくための支援をする。そういう熱い思いがかっこいいと思いました。

これまで小学校などでの防災教室に参加しましたが、子どもたちに教えるための準備が自分の勉強にもなります。防災に役立つ人間になりたいと思っているので、消防団は勉強させてもらっている場所という感じです。

佐々木(薫) いろいろな年代の方と交流できるのは貴重な経験です。みなさん仕事を持っていて、家事と両立したうえで、さらに時間を作って消防団に参加されています。やらされているのではなく、やりたいからやっているという姿勢がとても素敵だと感じました。



女性団員の先輩として、
入団を考えている人に
ひとことメッセージを。

佐々木(友) 女性消防団のイベントに一度は参加してほしいですね。それで防災について知識のある人が増えれば、必ずしも入団というかたちでなくても、地域の防災力は向上していくので、それでもいいのかなと思っています。

佐々木(薫) きっかけは、かっこいい制服が着てみたいでも何でもいいと思います。入ってみて、私はとても居心地がいいですが、違うなと思ったらやめてもいいのですから。



HACHINOHE
CITY



さ さ き せ ん な
佐々木 泉奈

八戸市消防団第6分団2班所属
23歳 / 会社員 / 活動歴1年



「早く現場で役に立ちたいので、 訓練も楽しいです。」



入団のきっかけは？
働きながらの入団に
不安はありませんでしたか？

佐々木 高校時代からボランティア活動に多く参加していて、東日本大震災のときは福島県にも行きました。この経験を何かに生かしたいと考えていましたが、同じ会社に女性消防団員の先輩がいて、女性でも、また働きながらでもできるなら、自分もやってみたいと思いました。



これまで
どんな活動をしましたか？
訓練には慣れましたか？

佐々木 祖父が同じ分団にいるので、いろいろと教えてもらっています。最初に礼式訓練を受けましたが、いまだに覚え切れなくて、YouTubeなどを見て自主トレしています。

消火栓から水を取って放水する水揚げ訓練にも参加しました。ポンプ車の中にホースは何本入っているのか、丸まっているホースをどうやってまっすぐに伸ばすのか、そういうことがわかってくるのが楽しいです。ただ、ホースは重くて転

がそうとしてもくねくねして全然だめでしたし、ホースの先端を持たせてもらったのですが、放水が始まると一人ではやっぱり振り回されてしまいます。先頭の人を持ちやすいように、2番手の人には低く構えることが重要だとか、実際にやってみて初めてわかることが多く、貴重な体験ができていると思います。



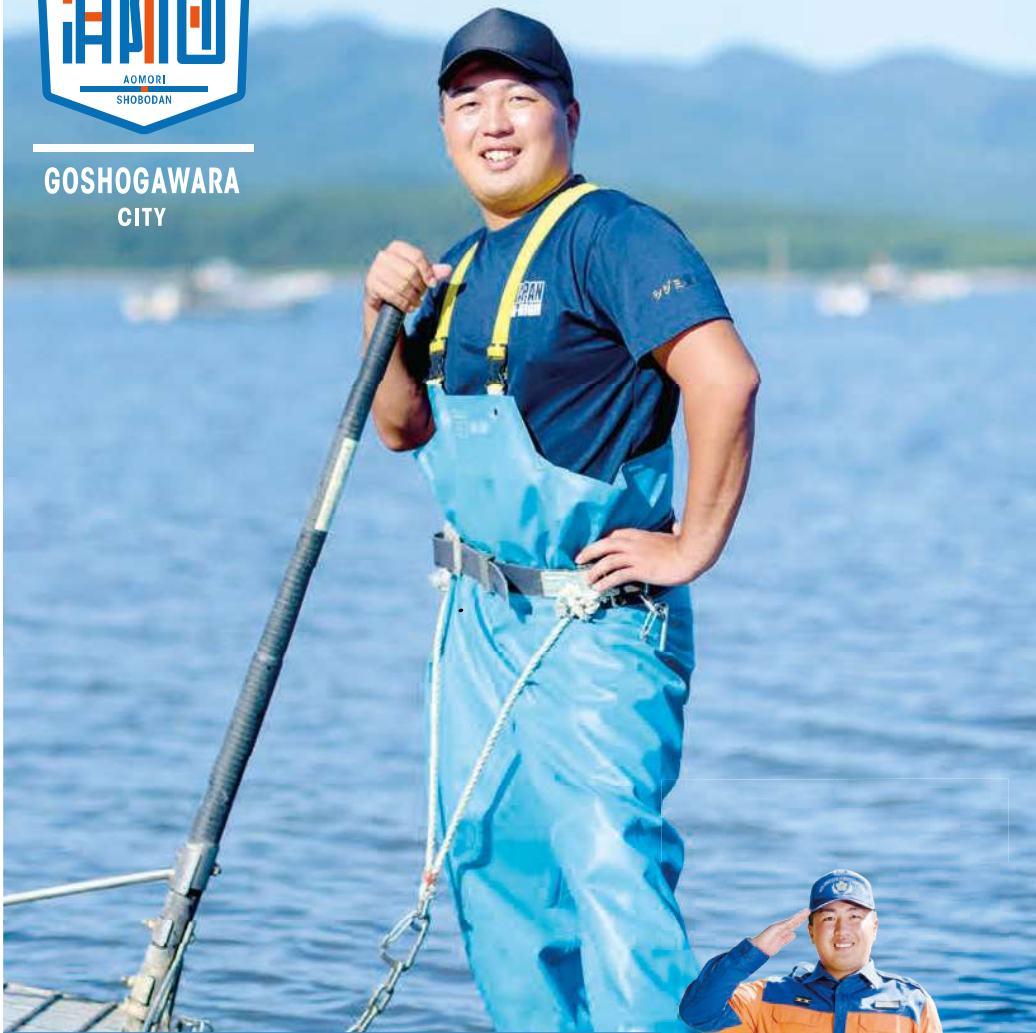
消防団員として
今後どのような活動を
していきたいですか？

佐々木 実際の現場では、交通整理など後方の仕事を中心になると思いますが、訓練に参加してみて、いざというとき人が集まれなくて、自分が動けるなら、消火もやりたいと思うようになりました。訓練を積めば女性でもできるし、一人では無理でも仲間と協力し合うことで火は消せます。うちの分団には女性が3人いますが、いつも訓練のあと、習ったことを確認し合ったり、感想を話し合ったりしています。

私は現場に行きたかったので、本部の機能別団員ではなく地元の分団を希望しましたが、広報などの仕事をされている女性団員の方ともお話ししてみたいですね。



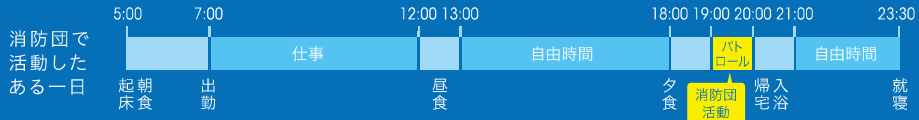
GOSHOGAWARA
CITY



とよしま ひでと

豊島 秀仁

五所川原市消防団
市浦地区第3分団所属
23歳 / 漁業従事者 / 活動歴2年





「身近な人が被害に遭ったとき、 力になれる人でありたいです。」

入団のきっかけは？
不安なことは
ありませんでしたか？



豊島 高校卒業後、1年ほど警備会社に勤務した後、実家に戻ってシジミ漁師になりました。父も漁師で消防団にいましたが、引退することになり、入れ替わるかたちで私が入団しました。父を見て、団の活動についてはある程度知っていたので、特に抵抗感はありませんでした。

これまでどんな活動に
参加しましたか？
現場で感じたことは？

豊島 コロナ禍が始まってから入団したので、訓練が中止になることが多く、私の場合は、最初の活動が本番の出動でした。警備会社で消火の訓練を受けていたので、先輩を手伝う形で一緒に放水しましたが、やはり経験の長い先輩には学ぶことが多かったです。可搬式の放水ポンプの扱いにも慣れていて、とても動きが早い。自分もこんなふうに素早くて確に動けるようになりたいと思いました。

また、現場では、やはり火災という災害の影響の大きさを実感しました。だいたい消防士の方が消火し終わっているので、私たちは周辺の燃え残りや類焼がないかを確認して、その後もしばらく待機してから撤収するのですが、完全鎮火までにはとても長い時間がかかりますし、多くの人の力が必要になります。消防団の役割の重要性がわかりました。

消防団に入って、
自分が変わったと
思うことはありますか？

豊島 漁師なので、もともと天気は気にしていましたが、大雨が予想される時などは、前以上に注意するようになりました。

8月の大雨被害のときは、知り合いの畑が冠水してしまい、ポンプ車で水を汲み上げに行きました。一日中外にいてキツかったですが、知っている人が被害に遭ったということもあり、できることをやろうとより思いました。

父との入れ替わりで成り行きのように入団しましたが、出動して被害が収まれば、大きな達成感があります。こういう経験を重ねて、消防団員として成長していきたいと思います。





MISAWA
CITY



かわむら とうき
河村 冬樹

三沢市消防団第4分団所属
28歳/会社員/活動歴8年





「できる範囲で、できることを。 特別な組織ではないと思います。」

入団前と入団後で
消防団のイメージは
変わりましたか？



河村 うちの曾祖父、祖父、父と消防団の分団長を務めてきたので、先輩方は昔から知っている人が多いですし、消防団の活動もだいたいは見ているつもりでした。

ただ、実際に入団してみて印象は変わりました。昔は、父について屯所に来て、団の人に遊んでもらったりしていたので、和気あいあいと楽しくやっている集まりだと思っていましたが、実際の災害時はもちろん、訓練のときも緊張感があり、やるときはものすごく真剣にやる。その切り替えがすごいと感じました。

実際の火災現場では
どんな活動をしましたか？
初めての現場の感想は？

河村 最初の出動は林野火災の現場でしたが、ふだん和やかに話している先輩方の態度ががらりと変わって、黙々と手際よく、どんどん作業をこなしていきます。すごいと思ったし、自分もこうな

りたいと思いました。

もうひとつ印象に残っている現場は、養豚場の火災です。広い敷地の大きな火災だったので、全分団が出動して、ホースを中継して消火しました。自衛官や警察官ではない一般の人たち、ふだんは会社勤めや自営業の人たちが、火事の現場では一丸となって消火に当たる。消防団という組織ならではのことで、力を合わせればすごいものだと感じました。

団の活動について
ご家族は
理解されていますか？

河村 消防団は特別な組織ではありません。出られるときに、出られる人が、近所の人と地域のために活動する。その点では、町内会の草刈りと同じ。家族にもそのように話しています。

私の妻も、最初はただ集まって飲んでいるだけの集団みたいに思っていたようですが、今は理解してくれています。出初式には子どもも一緒に見にきます。消防車がずらりと並ぶ光景は珍しいので子どもは喜ぶし、私が旗振りしているのを、圧倒されているのか、黙って見ているそうです。ちょっと誇らしいですね。





MUTSU
CITY



て ら し ま ゆ き え
寺 島 志 枝

むつ市消防団第7分団所属
47歳 / 会社員 / 活動歴5年



「職場以外の人たちとの交流で、 人生の幅が広がりました。」



入団のきっかけは？
仕事との両立は
難しくありませんか？

寺島 転職の準備で車の大型免許を取りに行ったとき、教習所の教官が消防団の方で、やってみないかと声をかけてもらいました。できる範囲で参加してもらえばいい、というお話でしたので、あまり悩まず入団しました。

分団で女性は私一人ですが、みなさん、男女の分け隔てなく接してくれるので、とても居心地がいいです。私は早朝からトラックを運転する仕事なので、夜の操法の訓練には参加できないことが多いのですが、それも仕事優先ということで認めてもらっています。

分団で唯一の女性ですが、
今後どのような活動をして
いきたいですか？

寺島 入団してからわかったのは、消防団の活動は、火災だけでなく、山菜採りの行方不明者の捜索、大雨のあとの土砂の片付けなど、とても幅広いということ。最初は自分に何ができるのか見当



もつきませんでしたし、力仕事もできませんが、東日本大震災のとき、女の人にしかできないことがあったという話を聞きました。

災害の現場や避難所では、男性には言いづらいこと、女性でないとわからないことも多いので、女性団員がいるだけで大きいと思います。何か災害があって、自分が行ける状況なら、できるだけ駆けつけたいと思いますし、その時々、女性でもできること、女性だからできることを見つけて、それぞれの人の事情に細やかに対応できる団員になりたいと思っています。

入団を考えている方に、
ご自身の経験から
アドバイスはありますか？

寺島 普通に生きていくうえで役に立つ知識や非常時の対処法などが、雑談の中でも知らず知らずのうちに身につけています。また、知識や技術だけでなく、職場以外のいろいろな人との交流は、それだけで人生の幅が広がり、自分のプラスになっていると感じます。

これをやらなければならないとか、できなければならぬとか難しく考えないで、まず一度話を聞いてみてはいかがでしょうか。